



おいのりさん



【乗物酔】

三十石船の京都土産で船酔いのまじないとして伏見人形が売られていたのが由来と思われる。

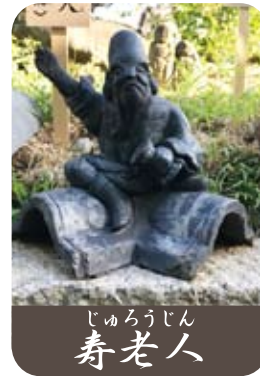
こむそう
虚無僧



【人気寄】

福を呼ぶ女性の象徴で、招福開運や豊穰、夫婦円満の縁起ものである。
このお多福の起源は日本神話の日本最古の踊り子であるアメノウズメであるとされる。

おたふく
お多福



【頭痛】

白ひげの寿老人は、中国の聖人学者といわれた。老子が天に昇って南極老人星になったという道教の思想からの健康長寿、福德の神様である。どうして頭痛治癒の功德があるのかわからない。

じゅうろうじん
寿老人



【災難除】

「他抜き」という語呂合わせから「人より抜き出る」という願いが込められ商売繁盛、開運出世の縁起物とされている。
災難除けの功德は狸が持っている「笠」が災難を防ぐとされているところからである。

たぬきおしょう
狸和尚



【縁起】

「無事かえる」「福をむかえる」「若返る」など「カエル」の言葉にかけて、旅行安全や福招きの縁起物として愛されている。

かえる
蛙



【腰痛】

むかしからの画題に西行が岩に腰掛けて月や富士山をゆったり眺める姿があり「腰が楽になる」意味で腰痛治癒の功德があるという。

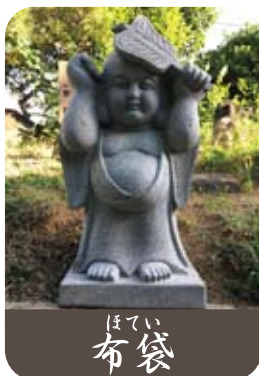
さいぎょう
西行



【福德】

江戸時代に彦根藩の井伊直孝が鷹狩りの帰りに、豪徳寺の前を通りかかったとき、急に雷雨が降り始めたため一本の大木の下で雨宿りをした。
すると寺の飼猫が、手招きしたので近付いたところ、先ほど雨宿りをしていた木に雷が落ちた。それを避けられたことに感謝し、直孝はお寺に多くの寄進をした。
黒猫は西洋では不吉なものとしているが、江戸時代には黒猫は縁起の良い動物とされていた。

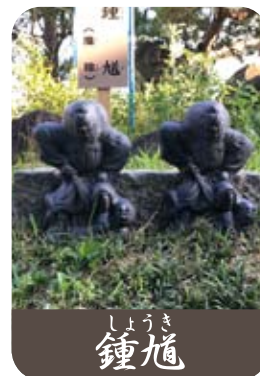
まねきくろねこ
招き黒猫



【安産】

七福神の一つで唯一、中国(唐の時代)に実在して禅僧。悠々自適でいつも楽天的な生き方が、人々に「至福」の象徴として受け入れられ開運、夫婦円満、子宝安産の神様と言われる。

ほてい
布袋



【魔除】

中国の唐の時代、病床の玄宗皇帝の悪夢の中に現れて鬼退治をした中国の役人の姿をして守り神である。
日本では魔除けや学業成就にご利益があるとされ、五月の端午の節句に飾られることがある。

しょうき
鍾馗

願いごとは
護摩祈禱いたします
お申込みは寺務所受付へ
祈禱料 380円



【勝運】

目が出ているので、芽がでるとも受け止められ、再生、豊穰、勝運のシンボルとされている。

しやれこうべ
骨



【忍耐】

禅宗をはじめたインド出身の僧侶。中国で修行を行い、壁に向かって九年間座禅をしたため手足が腐ってしまった。失敗しても何度も起き上がる気合いで、七転び八起きの縁起物とされる。

だるま
達磨